

第6回日遊協定例理事会

3月17日
本会議室
出席理事・監事26人

大震災対策を集中討議「自粛し、同時に委縮せず」

会議の冒頭、東日本大震災の犠牲者に、出席者全員が黙祷を捧げた。深谷会長は挨拶で、「早く元氣を出して、国民の皆様の憩いを取り戻

す環境づくりをしていこう」と強調した。(会長挨拶の要旨は別掲)

会議の大半は、未曾有の大地震被害に対して日遊協としてどう対処していくかの議論に費やされた。警察庁から業界への要請文、ホール5団体代表者会議の合意、それらを受けてのパチンコ・パチスロ産業21世紀会の決定など、一連の流れが報告された。

業界全体(21世紀会)の決定に協力していくことを踏まえた上で、各理事が意見を出した。国民目線を配慮して、「電気を煌々と照らし、みんなが生きるか死ぬかであるときにパチンコ屋を開くとは何事かというお叱りがある。パチンコはそうじゃないんだと、国民の皆さんにどう理解してもらえるかが問題だ」「国民目線では単に寄付すればいいというものではない。きちんと自粛して、国民みんなが耐えていることに合わせていくこ

とが必要だ」「もし何か決定をする場合には、できるという確認をとってから発表しないとけない。(ネオンの消灯などを)発表するだけして実際には実施されていないとすると、さらなる指弾を浴びることになる」などの意見が出された。

現地に救援センター設置へ

さらに事務局から、「地震直後から16日まで、PSIO(遊技産業不正対策情報機構)に『今は節電すべきだ』『電力不足なんだから少しは考えろ』という批判の投稿が5通あった。PSIOへの投稿はパチンコファンばかりで、とくにコアなファンが多い。そんな中でも批判的に見ている人はいる」との報告があった。

一方で、自粛が長引くことでの業界全体の萎縮を心配する声も多く、「自粛をずっと引きずって行く」と、全体がおかしくなる。様子を

見ながらでも、前に向かっていくということを示していかなければいけない」「いつまでも全国で一斉に自粛しては、どこももたない。一定の節度はわきまえた上で、力強く動けるところは動き、元氣がなくなっているところを支えていたきたい」などの指摘があった。「被害がない地域、計画停電がない地域のホールは、4月以降、状況が改善に向かうのを見極めて、元氣に営業し、義援金づくりに励むべきだ」との意見に集約された。

被災地への援助として、義援金とは別に、支援物資を配付するための救援センターを現地に設置する提案があった。

また、「われわれの仲間内でも多くが被災しており、そちらも助けねばならない」「販社は零細企業ばかりだから、長期間の自粛による開店休業状態で売上ゼロを続けているは体力がもたない」との悲痛な意見もあった。

11年度事業計画と重点推進事項を承認

2011年度事業計画と重点推進事項(別掲)が承認された。重点



第6回定例理事会の冒頭、大震災の犠牲者へ黙祷が捧げられた

推進事項は10年度と大筋で変わらないが、第1項目の「パチンコ・パチスロ新時代……」で(4)として「消費税問題についての取り組みの強化」を加えた。第4項目の「社会貢献活動の推進と……」で、10年度は3番目にあった「……社会的評価を高めるための広報と各種イベント活動の推進」を(1)に繰り上げた。第5項目の「組織体制の整備と活性化」で「会員増強方策の積極的推進」を先頭に繰り上げ、

(2)に「委員会活動の充実強化」を置いた。第6項目の「団体間の連携強化」では、ホール5団体風営法検討会をはじめ、昨年から団体間の協議が活発化していることを受けて、「現行法令制度の問題点の検討と改善への取り組み強化」「団体間の各レベルの会議の充実」の2つの小項目を新設した。

11年度収支予算は、経費削減途中なのと大震災の対策とで一部流動的なため、5月の11年度第1回理事会で提出される。賃借料、旅費等の削減、事業の見直しが徹底的に行われる予定で、これに関連して、理事、事務局職員の旅費規定の改正が承認された。

賛助会員3社の新規入会を承認した。これで正会員368社（ホール117、機械70、販社134、景品10、その他37）、賛助会員46社、計414社と団体加入1（同友会）となった。（21ページに新規入会員）

深谷会長あいさつ（要旨）

何ができるのか、何をすべきか 被災者支援と産業の活性化へ

東日本大震災の犠牲者、被災者の皆様に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

われわれの仲間の中にも震災に遭われ、お店は全壊し、喪失、しかも未だ行方がわからない経営者、社員の皆様がたくさんおられます。胸の詰まる思いがいたします。

日遊協は3月14日に大震災対策本部を設け、以降今日まで様々な対策に追われてきました。東北支部の会員の方々も被災しました。高橋事務所に私どもが行ってお手伝いすることがあるか尋ねたところ、お願いしたいが立ち入りできない場所がたくさんあり、陸路で来られても途中で行けなくなるであろうとの

ことでした。日遊協にはボランティア派遣隊の組織があり、いつでも出動できる態勢にあります。

国民の皆様から、今営業することに対するご批判等、いろいろなご意見が寄せられていることも事実です。警察庁は今回のことについて大変憂慮され、かなり厳しい思いで業界を見守っていただいています。保安課長からの要請文を昨日（16日）受け取りました。われわれは真摯にこの内容を遂行し、

全国民の皆様とともに被災地への支援と協力をしなければなりません。昨日開かれたパチンコ・パチスロ産業21世紀会においても、遊技産業すべての皆様が同じ思いで大震災を受け止め、被災地を支援するために義援金を集めようとの決議がなされました。被災された方々



の1日も早い復興を祈念してやみません。

私どもはここで止まることなく、勇気を持って前進し、新たな遊技産業の活性化を図って行きたい。チラシ、広告等を自粛し、業務上必要不可欠な箇所は除き、努めて節電対策を徹底していただき、国民の皆様への場を提供しつつ、一刻も早い被災地への支援の環境づくりを行いたい。そのためには東京電力、東北電力の1日も早い回復、アクセスの改善が望まれますが、福島原発の現状を見ると道は遠く、長期戦になるかも知れません。われわれには何ができるのか、何をすべきか、ご議論していただいて、明日から活動に専念したいと思います。

2011年度 委員会の基本方針・事業計画

<p>●広報委員会 (明日の協会創造室)</p> <p>[基本方針] 新たな日遊協の支援者を作り、同時に一般国民のパチンコ産業への理解を深めるため、日遊協の姿勢を、そして派生する活動をきめ細かく、わかりやすく業界内外に広く伝える具体的施策を行う。</p> <p>[事業計画] ①日遊協ホームページによる情報のアウトプットシステム(ホームページの情報更新によるニュースの配信と情報共有等) ②一般媒体へのアプローチ(一般メディアへの広報誌配布、ニュースリリース定期配信等) ③エッセー・絵手紙コンクール活動と運用 ④日遊協事業に対する取材と広報誌編集のバックアップ(広報誌編集会議リリース記事作成、広報誌ライター取材同行等)</p>	<p>委員長: 福山 裕治</p>
<p>●支部強化委員会 (明日の協会創造室)</p> <p>[基本方針] 業界唯一の公益法人であり、横断的な組織である日遊協が、業界にとって価値ある存在として在り続けるには、各支部活動の強化および会員の増強は永続的な課題と考えます。支部強化委員会は、各支部、各会員の声を集約し、各委員会に会員の要望を伝え、また各支部役員を中心に各委員会活動を伝える役割の中心として機能し、その結果として会員増強に繋がります。</p> <p>[事業計画] ①支部運営についての意見交換(各支部運営について意見交換し、支部運営の見直しを図る) ②支部開催事業の促進と協力(支部強化委員会として、その活動支援および実施事業への集客に協力する) ③会員親睦事業の企画(チャリティゴルフ、研修ツアーの企画、実施) ④支部強化活動(支部ごとに会員企業の営業所・支店等と交流会を行い、支部事業活動への参加促進を図る)</p>	<p>委員長: 白石 良二</p>
<p>●人材育成委員会 (明日の産業創造室)</p> <p>[基本方針] この産業の将来を担う人材の発掘・育成は、パチンコ産業が大眾に愛され続けるために必要不可欠である。当委員会は、業界への優秀な人材の獲得、会員企業社員の交流促進、教育研修プログラムの充実を図り、パチンコ業界を担う次世代の育成に努め、パチンコ業界全体の人材の底上げに貢献したいと考える。</p> <p>[事業計画] ①第5回遊技産業マネジメントカレッジ ②パチンコ産業説明会 ③店長等講習会 ④人材育成担当者フォーラム ⑤遊技産業マネジメントカレッジ支部ver.</p>	<p>委員長: 井上 雄太</p>
<p>●社会貢献・環境対策委員会 (明日の産業創造室)</p> <p>[基本方針] パチンコ産業は、社会の一員として、大眾に愛され、共に歩んできた。社会に貢献し、認知される事は、パチンコ産業の存続に欠かせない。そして、いま世界的に指摘されている地球温暖化問題への対応は、パチンコ産業にとっても避けて通れない課題であり、省エネ、CO2削減への取り組みは重要課題となっている。「共生の森」事業を継続するとともに、ホール5団体とともに「エコホール宣言」キャンペーンを展開するほか、環境フォーラムも開催したい。</p> <p>[事業計画] ①共生の森事業(23年度は植林活動は行わない) ②省エネ活動「エコホール宣言」キャンペーン(ホール5団体合意に基づくポスター配布など啓蒙・普及活動) ③環境フォーラムの開催(ホール5団体と共催で環境フォーラムの開催を検討)</p>	<p>委員長: 薛 博夫</p>
<p>●経営改革委員会 (明日の経営創造室)</p> <p>[基本方針] パチンコホールを取りまく経営環境は大変厳しい状況が続いており、新たなビジネスモデルの構築が求められている。当委員会では、低貸玉営業の動向、ファン離れ、遊技態様の変化などを踏まえつつ、顧客にとって魅力ある店舗創造に向けて、ホール経営資源に関わるテーマについて研究および提言を行っていききたい。</p> <p>[事業計画] ①消費税増税への対応検討(近い将来予想される消費税増税に伴う貸玉料金への転嫁方法と、ホール経営、低貸玉営業などにおよぼす影響等についての研究) ②いわゆる店外オンラインなど新たな賞品提供の仕組みづくりの検討(新たな景品交換チャネルの開拓によって地域商店街等の連携を強化し、地域社会との共生を企図する) ③ホール経営に関わる諸課題の検討(顧客離れ、新業態、貸玉料金の多様化、賞品の取りそろえ充実など。ホール経営の事例研究、ネットスーパーの研究など) ④勉強会[テーマの必要に応じ講師招聘](研究テーマの発表を兼ねた勉強会の企画実施)</p>	<p>委員長: 山内 伸</p>
<p>●流通制度委員会 (明日の経営創造室)</p> <p>[基本方針] 資源有効利用促進法における3R(リデュース、リユース、リサイクル)推進の観点からも、中古遊技機の適正かつ円滑な流通の保持は、遊技産業にとって欠かせない取り組みである。当委員会では、昨年度に引き続き中古機流通制度の促進を図ると共に、現状の問題点について検討し、より良い制度への確立を目指していく。また、遊技機取扱主任者試験は、その流通の根幹をなす資格制度であり、現状の良い点、改良すべき点を検討し、より良い運用を目指す。</p> <p>[事業計画] ①遊技機取扱主任者試験および制度の検討(遊技機取扱主任者の試験について、その現状を把握し良い点、改善すべき点の検証を行い改善提案を行う。また、遊技機取扱主任者の規程について検討を行う) ②中古機流通制度(中古機の広域移動における問題点の改善など、現状の流通制度の問題点を把握し、より良い制度を確立するための研究と中古機流通協議会への提言、勉強会の実施など啓蒙活動を行う) ③ホール管理者の補助員の検討(ホール管理者に補助員をおくことについて検討する) ④リサイクル問題についての検討(リサイクル推進委員会での審議事項など現状の問題や課題を把握することから始め、業者選定方法の改良など、より良い制度づくりを支援する)</p>	<p>委員長: 石山 敬達</p>
<p>●遊技機開発委員会 (明日の遊技機創造室)</p> <p>[基本方針] 昨年度に引き続き、現在の顧客を減少させない遊技機の企画、開発を行い、更には遊技顧客増大・創造に繋がる新たな遊技機の企画・開発を行なうことを主眼とする。</p> <p>[事業計画] ①新たなパチンコ・パチスロの企画・開発 ②パチンコ・パチスロのコストダウンの方策の提言 ③'11パチンコ・パチスロに関するファンアンケート調査 ④ノンプレイヤーのパチンコ・パチスロ体験調査 ⑤ばちんこ&パチスロフェスタおよび遊技機アワード</p>	<p>委員長: 鏡味 政樹</p>
<p>●遊技機健全化委員会 (明日の遊技機創造室)</p> <p>[基本方針] パチンコ産業が大眾娯楽として国民に愛され続けるためには全てのお客様に公平・公正な遊技環境を提供する事が不可欠である。当委員会では遊技機、周辺機器等に関わる不正情報収集、遊技環境全般における不正情報の収集に努め、ホール・メーカー・販社が情報を共有し対策を講じていく。</p> <p>[事業計画] また早期発見、再発防止に向け業界内外に向けた啓蒙・啓発活動を推進していく。①不正対策勉強会(最新の不正・ゴト事例を広く知らしめ、ホールにおける不正の軽減をはかる。全日遊連、各県遊連と共催すべく、企画段階より検討を重ねる) ②啓蒙用DVD、教材等の作成(現場で働く従業員が不正に対する意識を高めるための教材としてDVDを作成する。不正対策勉強会での配布を目的とする) ③遊技機不正防止マニュアル改訂(現場で働く従業員が不正に対する意識を高めるための教材として最新の情報を盛り込んだ改訂版を作成する。不正対策勉強会での配布を目的とする) ④不正情報ネットワーク構築(全日遊連、日遊協、同友会など団体間の垣根なく迅速な不正情報の共有をするため、新たなネットワークを構築する。システム構築に係る費用等は各団体での共同出資となるため別途計上)</p>	<p>委員長: 梅津 源太</p>